

令和元年度学校評価自己評価書(豊山町立志水小学校)

経営理念	学校教育目標…力いっぱいがんばる子の育成 めざす児童像…進んで学ぶ子 仲よく助け合う子 元気でたくましい子 めざす教職員像…子どもを大切に教職員 学び続ける教職員 協働する教職員
------	---

資料1

【評価基準】4…十分達成できた、3…ほぼ達成できた、2…あまり達成できなかった、1…全く達成できなかった

経営目標	重点目標	班 担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	改善に向けて
○進んで学ぶ子(確かな学力)の育成	・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得	1 後藤 森山林	① 授業や朝の学習タイムでの反復練習の指導を工夫する。 ② 算数では、授業の初めに「本読み計算」を行う。 ③ 学年に応じた家庭学習の習慣づけを行う。 ④ 漢字・計算コンクールを実施して、基礎学力の確認をし、個に応じた指導をする。 ⑤ 夏休みに、計算力や算数の基礎学力に課題がある3年生以上の児童を対象に算数教室を実施する。	① 授業や朝の学習タイムでの反復練習の指導を工夫したか。 ② 算数では、「本読み計算」を継続的に行ったか。 ③ 家庭学習の習慣づけができたか。 ④ 漢字・計算コンクールを実施して、基礎学力の確認をし、個に応じた指導を行ったか。 ⑤ 算数教室を実施し、計算力や算数の基礎学力のアップに努めたか。	児童 ①3.4 ②3.3 ③3.5 ④3.5 ⑤4.4 保護者 ①3.1 ②2.8 ③2.9 ④3.0 職員 ①3.1 ②2.8 ③3.1 ④3.3	おおむね、基礎学力の定着に向けて、宿題や朝学習で取り組んでいる。 算数の時間の「本読み計算」は、教員用アンケートからも児童用アンケートからも、実施状況に差があることが分かる。 家庭学習については、アンケートで、職員は「量や内容を工夫している」、児童は「進んで取り組むことができた」という回答が多い。自主学習の方法を工夫して取り組んでいる学級が増えた。約3割の保護者は「進んで取り組んでいない」と感じていることが分かる。 漢字・計算コンクールに向けて、ほとんどの児童が頑張っており、進んで取り組むことができた。事前事後の指導を工夫し、個に応じた指導を行っていたと考えられる。	朝の学習タイムの有効な使い方や、家庭学習の量や内容について、教員同士で意見交換ができると、より良い指導につながると考えられる。 算数教室については、児童の登下校の安全確保や教員の働き方改革の取組等のため、縮小傾向にあり、その意義が薄れてきていた。次年度は、対象を限った算数教室は取りやめ、基礎学力の向上のための取組を工夫する。
	・「聴き合い、学び合う」活動を取り入れた主体的・対話的で深い学びのある授業展開 ※「共有の課題」と「ジャンプの課題」	2 村川 日置 伊藤	① 「学び合い」をどの場面でどのような形態で行うかを、単元構想に位置付け、日々の授業で意識して実践を行う。 ② グループ隊形を活用し、いつでもわからないことを聴いたり、考えを聴き合ったりできるようにする。 ③ ペア学習やグループ学習において、考えの伝え方・聞き方・つなぎ方を例示するなどの工夫をする。 ④ 「学び合っていること」や「寄り添って一緒に考えていること」を褒める。 ⑤ クラスの実態に合わせ、「学びたい」という意欲がもてるようなジャンプの課題を設定する。	① 単元構想の中に「学び合い」を位置付けて、実践することができたか。 ② わからないことを聴いたり、考えを聴き合ったりさせることができたか。 ③ ペア学習やグループ学習において、考えの伝え方・聞き方・つなぎ方について発達段階に応じた工夫を行えたか。 ④ 「学び合っていること」や「寄り添って一緒に考えていること」を褒めることができたか。 ⑤ クラスの実態に合わせ、「学びたい」という意欲がもてるようなジャンプの課題を設定することができたか。	児童 ①3.5 ②3.3 ③3.4 ④3.7 ⑤3.7 保護者 ①3.0 ②3.1 ③3.1 ④2.9 ⑤2.7 職員 ①3.0 ②3.7 ③3.0 ④3.0 ⑤2.4	児童アンケートから、「聴き合い、学び合う」活動は児童にとって有意義な取組として実感できていると言える。引き続き行っていくとよい。しかし、「聴き合い、学び合う」活動によって個人の理解がどのくらい深まったのかを知る方法や活動の様子の評価の仕方に課題があると感じた。 保護者アンケートでは「聴き合い、学び合う」活動の評価が低く、授業での取組が家庭まで伝わっていないことが分かる。 教員アンケートでは、本年度も各自の評価が低かった。「考えの伝え方・聴き方・つなぎ方」や「ジャンプの課題」についての共通理解が不十分であった。 しかし、年6回行った授業研究では、学び合い活動についての授業でも取り入れ、ジャンプの課題については、4回の授業で行った。どの授業でも、ジャンプの課題について学び続ける児童の姿があった。	保護者の理解を得るためには、ホームページや学年だより等で学校での取組についてのねらいや方法を発信していくとよい。 授業研究の成果と課題を明確にし、共通理解を図る。 他校の実践例やジャンプの課題などの情報を共有する。
	・タブレット端末を活用したプログラミング的思考の育成 ・外国語活動の充実	3 内藤 中川 伊藤	<タブレット端末を活用したプログラミング的思考の育成> ① タブレット端末を活用して、プログラミング的思考の育成を意識した授業を行う。 ② プログラミングができるソフトを利用した出前講座を実施する。 <外国語活動の充実> 3・4年:外国語を「聞くこと」「話すこと」に慣れ親しませるために担任を中心とした授業実践を行う。 5・6年:「聞くこと」「話すこと」に加え、「書くこと」に慣れ親しませるために担任・専科を中心とした授業実践を行う。	<タブレット端末を活用したプログラミング的思考の育成> ① タブレット端末を活用して、プログラミング的思考の育成を意識した授業を行うことができたか。 ② プログラミングができるソフトを利用した出前講座を実施できたか。 <外国語活動の充実> 3・4年:外国語を「聞くこと」「話すこと」に慣れ親しませるために担任を中心とした授業実践を行えたか。 5・6年:「聞くこと」「話すこと」に加え、「書くこと」に慣れ親しませるために担任・専科を中心とした授業実践を行えたか。	児童 ①3.7 ②3.5 ③4.3 ④3.0 ⑤2.6 保護者 ①3.0 ②2.6 ③2.8 ④3.5 職員 ①2.2 ②1.6 ③2.8 ④3.5	<プログラミング的思考の育成> ①昨年度に比べ、タブレット端末を活用して授業実践をする学年・学級が多かった。ただし、プログラミング的思考の育成を目指した授業展開については、職員の評価が低いことから、今後も研修を重ねていく必要がある。 ②高学年でそれぞれの学年の実態に合わせた出前講座が実施できた。講座後もタブレットを使って、プログラミングに慣れ親しませることができた。今後は、低・中学年に向けた出前講座の実施を考えていく必要がある。 <外国語活動の充実> 児童評価はとても高いが、保護者の評価との差がある。授業公開等で外国語の授業を3・4・5・6年で実施することで、実態を伝えられると考える。	プログラミング的思考の育成に関する職員向けの研修を行う。 プログラミングに関する児童向け出前講座を積極的に利用する。 授業公開では、3・4年生の外国語活動、5・6年生の外国語の授業を保護者に見ていただけるよう、日程を調整するとよい。
○仲よく助け合う子(豊かな心)の育成	・多面的・多角的に考えて議論する道徳科の充実 ※自我関与させる発問の工夫 ※役割演技・動作化の活用 ※道徳的成長を見取った評価	4 笠巻 角 古谷	① 道徳科の授業研修や教師間の授業公開により、教師が、問題解決的な視点に基づいて授業を組み立てる力を高める。 ② 道徳科の授業を体験的な活動(行事や教科)と関連付けて計画・実施する。 ③ 道徳科の時間における学び合いを通じて、児童が、多面的・多角的に物事を考えることができたかどうかを検証する。 ④ 児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める。	① 道徳科の授業を計画的に行うことができたか。また、発問や展開の工夫をすることができたか。 ② 児童が、道徳科の授業に、体験的な活動と道徳的価値とを関連させて考えることができたか。 ③ 道徳科の授業における学び合いを通じて、児童が、多面的・多角的に物事を考えることができたか。 ④ 児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすことができたか。	児童 ①2.6 ②3.5 ③3.4 ④3.0 ⑤3.1 保護者 ①3.0 ②2.7 ③2.6 ④3.2 職員 ①2.7 ②2.6 ③2.6 ④3.2	道徳科の授業で進んで話し合ったり、友達の意見を聞いたりすることができていると考えている児童は多く、授業は意欲的に取り組んでいる。しかし、教員や保護者のアンケートによると、児童が思っているほど、「相手のことを考えて行動できている」とは感じていない。児童は、道徳的価値について考えることはできているが、それを基に自己の生き方について考えを深めるところまではしていないことが原因であり、更なる指導の工夫が課題である。 道徳が教科化され、授業時間は確保されるようになったが、児童が、多面的・多角的に考え、議論することができるような授業づくりが難しく、発問や展開の工夫が十分でないとする教員が多い。	道徳的価値について、自分事として考えられるような授業展開や発問について、教員間での学びを深める。 授業研修や授業公開により、教員全体の指導力の向上を図る。
	・あいさつ、返事の励行 ・思いやりや感謝の心、自己有用感を育む児童主体の体験活動の実施 ・児童の心に寄り添った教育相談活動の実施 ・いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期対応	5 藤井 辻 廣下	① 代表委員会のメンバーで『学校見守り隊』を結成し、月2回の挨拶運動や生活見守り活動を行う。また、全校児童が挨拶運動に参加できるように『あいさつやってみ隊』を募集する。 ② あいさつウィークを設定し、挨拶・会釈を習慣づける。 ③ 児童会主催の集会を設け、「企画運営委員会」で企画・運営を行う。必要に応じて代表委員会に協力を呼びかけ、集会を進行する。 ※1年生を迎える会(4月)…全校で1年生の入学を祝う。 ※運動会の応援合戦(5月)…6年生が中心となって運動会を盛り上げる。 ※チャレンジ大会(7月)…各クラスで運営し、交流を深める。 ※クリスマス集会(12月)…会場の飾り付けやゲーム等の進行をする。 ④ 縦割り班を編成し、清掃や集会、読み聞かせ等の活動を行い、縦のつながりを深め、思いやりや感謝の気持ち、自己有用感を育む。 ⑤ いじめに関するアンケートや教育相談、チャンス面談を実施し、こころの健康の増進を図り、安心して生活できる学校づくりに努める。 ⑥ 担任は、1日の生活の中でクラスの児童全員と言葉のやり取りをする。担任以外は、あいさつ等を通して児童とコミュニケーションを取る。児童の良いところを積極的に教員同士で伝え合う。	① 児童は、進んで挨拶・会釈をすることができたか。 ② 集会や行事、縦割り班活動等を通して、児童の自己有用感を高めることができたか。 ③ 児童が安心して学校生活を送ることができたか。	児童 ①3.5 ②3.7 ③3.8 ④3.4 ⑤3.4 ⑥3.4 保護者 ①3.1 ②3.6 ③3.3 ④3.3 職員 ①3.6 ②3.4 ③3.3 ④2.8 ⑤3.3	①の挨拶については、児童と保護者の間で認識に差がある。校内では進んで挨拶をしているが、家庭や地域では挨拶ができていないと推測できる。校内での様子は褒めつつ、校外でも挨拶ができるよう指導をしていく必要がある。 ②の集会や行事については、意欲的に取り組むことができる。職員アンケートでも、児童が進んで取り組むことができるよう指導したという結果が見られたので、今後も続けていきたい。 ③の安心した学校生活については、昨年よりも備かではあるが、児童のアンケート結果も向上している。保護者のアンケートを見て88%の人が学校の対応に「まあまあ」以上の解答をしている。日頃の先生方の細やかな指導の積み重ねである。	校外でも挨拶ができるよう、継続的な指導を行う。また、気持ちのよい挨拶の仕方に対する児童の意識を高めていく。 縦割り班活動による清掃、遊び、読み聞かせ等の活動を継続する。集会や行事では、児童の取組を工夫する。 児童が安心して学校生活を送るために、問題の未然防止、迅速な解決心がける。

【評価基準】4…十分達成できた、3…ほぼ達成できた、2…あまり達成できなかった、1…全く達成できなかった

経営目標	重点目標	班 担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	改善に向けて
○元気でたくましい子(健康やかな体)	・健康教育、食育の推進 ・体育的な行事・活動の充実	6 伏見宮外森下	① 歯みがき点検活動や外部講師を招いた1・2年生向け出前講座を行うことにより、歯みがき習慣の定着を図る。 ② 朝ごはんの点検活動を通して、バランスのとれた食事に対する意識の継続を図る。また、親子ふれあい給食での栄養教諭による指導や、給食完食週間を行い、日常の指導に生かす。 ③ 志水っ子ランニングでは、ランニングカードを活用し、運動への意欲を高めたり、体力の向上を図ったりする。 ④ なわとび運動では、なわとびカードを活用し、目標を意識して運動に意欲的に取り組めるようにする。	① 1日3回の歯みがき習慣が定着したか。 ② 生活習慣チェックカード(朝ごはん含む)や食育指導を通して、バランスよく食事をとることができたか。 ③ 志水っ子ランニングに進んで取り組むことができたか。 ④ なわとび運動に、目標を意識して取り組むことができたか。	児童 ①3.5 ③3.4 ④3.4 保護者 ①3.1 ②3.0 ④3.0 職員 ①3.4 ②3.4 ④3.2	①については、昨年度と比較して、児童・保護者ともにできた割合が約5%増加した。今後も歯みがきの大切さを継続して伝えていく必要がある。 ②については、児童と保護者の約80%ができた割合から、保護者の協力を一定数得ていると考えられる。今年度実施した元気モリモリ給食週間などのように、日々の給食指導の中でバランスよく食べる大切さを伝え、意欲を高められるようにしていきたい。 志水っ子ランニングでは、ランニングカードの内容を工夫したことや休み時間等で走った分も記録できるようにしたこと、昨年度より児童の意欲が向上した。 ④については、児童の87%ができた割合となった。なわとび週間中に、短縄跳びや大縄跳びを通して、他学年が交流する授業を取り入れているクラスもあった。志水タイムでのなわとび運動、なわとびカードが意欲づけになっていたため、来年度も、児童が意欲的に取り組むことができる指導法を取り入れていきたい。	志水っ子ランニングやなわとび運動は、体力を向上させる上でも大切にしたい活動である。志水タイムでの運動は、日数が限られているので、継続して取り組めるような工夫をする。
○開かれた信頼される学校づくり	・地域のボランティア、ゲストティチャーの意図的・計画的な活用と教育的効果の検証	7 教頭折戸	① 必要に応じて、家庭や地域からボランティアの人材を募集する。 ② 各教科の学習内容に沿った出前講座やボランティアを活用するよう計画を立てる。 ③ 活用したゲストティチャーによる出前講座は、事後の評価をし、次年度への記録を残す。	① 必要に応じて、家庭や地域に向けて募集案内をしたか。 ② 地域や外部ボランティア、ゲストティチャーを活用することにより、学習内容の充実が図れたか。 ③ 事後評価し、次年度に向けて記録を残したか。	児童 ②3.7 保護者 ①②3.2 職員 ①1.8 ②2.6 ③2.6	出前講座については、必要なものは継続し、取捨選択して行った。昔の遊び、玉ねぎの植え付け、版画指導、いろはに邦楽等、今年度は行わなかった。一方、昨年度行わなかった太鼓体験を今年度行ったり、新たに救急法や手話を教えていただいたりした。 町や地域の要望で行うものもあり、教育課程での位置づけが難しいこともあるが、意見を伝えることで改善されることもある。 児童や保護者は、出前講座に対する受け止めはよい。依頼に関する文書は学年のファイルに綴じ、「出前講座一覧表」に記録し、準備や活動の様子を写真で残している。外部講師の方のお話には課題を感じることもあったので、記録として残しておく。 【出前講座】1年(ペープサート・絵の具指導) 2年(町たんけん・輪車講座・読み聞かせ) 3年(リコーダー指導・辞書引き学習・どじょう寿司・人権教室・太鼓・百科事典) 4年(CAP講習会・手話・太鼓・百科事典) 5年(しょう油講座・お魚大好き、命の講座) 6年(薬物乱用教室・救急蘇生法・租税教室・戦争体験を聞く会) 3～6年(情報モラル教室) 4・6年(福祉実践教室) 5・6年(仕事の話・プログラミング) 全学年(読み聞かせ・どんぐり読書会) 飼育委員会(動物ふれあい教室) 園工クラブ(老人介護施設の利用者との交流)	出前講座については、教育課程の中で有用性のあるものを精選していくようにする。事前の打ち合わせを行い、学校側の意図を伝えて活用方法を改善する。 「出前講座一覧表」に、次年度に向けての評価を記録し、引き継いでいく。 データ保管場所:学校フォルダー→06教科・領域→出前講座一覧→R1のタブ
	・家庭や地域の声を生かした有効な学校評価の実施と学校改善 ・学校公開の充実 ・ホームページ、各種たよりを活用した情報発信	8 教頭	① 前年度実施のアンケートの意見を生かすとともに、学校教育目標、重点目標に基づき、班ごとの取組を計画的に行う。 ② 自己評価書を公表し、学校評議員会・学校関係者評価委員会での意見を反映して評価結果をまとめる。次年度に向けた改善方策を全教職員で具体的に検討する機会を設ける。 ③ 地域や保護者の方に学校を訪れる機会を計画的に設けるとともに、必要に応じて授業の様子を公開する。 ④ 学年便りや保健便りを月1回、生徒指導部や体育部からも必要に応じて便り等を発行し、学校の取組について情報発信をする。ホームページを随時更新し、児童の様子を知らせる。	① 学校評価の取組を計画的に行い、学校教育目標、重点目標に基づいた「具体的な取組」について実践することができたか。 ② 全教職員で具体的に検討して、自己評価書をまとめることができたか。 ③ 地域や保護者の方に、学校公開を行うことができたか。 ④ ホームページや便りを活用し、学校の取組や児童の様子を知らせることができたか。	保護者 ②1.9 ③3.3 ④3.2 職員 ①3.2 ②2.8 ③3.2 ④3.2	保護者のアンケートによると、ホームページで「学校評価自己評価書」を読んでいる方は、約3割。全く読んでいない方は、半数を超える。PTA総会・学年懇談会の折には、校長や担任から本校の教育目標及び重点目標について、話をさせていたいただいている。保護者に理解を得られるような機会をとらえていく必要がある。 職員アンケートでは、学校教育目標、重点目標に基づいて取り組むことがあまりできていないと回答した職員がいた反面、昨年度より「よくあてはまる」と回答した職員が増えた。 学校公開やホームページ、各種便りを通して、児童の様子や学校の取組等の情報を発信することができた。今年度は、担任にもホームページの記事を作成していただいたので、内容がより豊かになった。	重点目標に基づいた「具体的な取組」について、4月当初に提案できるような日程の調整をする。学期ごとに、学級経営案について振り返りし、次学期に向けての方針を考える。
○教職員の資質向上と多忙化解消	・教員同士の授業参観による主体的交流 ・外部講師招聘による研修の場の設定	9 伊藤折戸	① 普段の授業において教員同士で授業参観が行えるようにし、指導方法や指導内容についての意見交換を通して、教師としての力量向上を図る。 ② 現職教育のテーマに沿って、外部講師による研修の場を設定する。	① 教員同士の授業参観やその授業の指導方法や指導内容についての意見交換を通して、教師としての力量向上に努めることができたか。 ② 外部講師による研修や講義を通して、教師としての力量向上に生かすことができたか。	職員 ①3.4 ②3.1	日頃の授業でも、学年内や他学年で授業についての情報交換や意見交換を行うことができているが、より多くの教科で行いたいと感じている教員も多い。計画的に授業研究を行い、その提案授業により教員同士が学び合うことができた。 ICT機器の活用については、タブレット端末をどの学年も授業の中で積極的に取り入れて、ペアやグループ、個人での使用など工夫して取り組んでいる。 8月の現職教育では、「学び合い」について先進的に取り組んでいる先生を講師として招いた。「ジャンプの課題」について共通理解する一歩となった。しかし、それ以外は、年間計画で計画していなかったため行うことができなかった。 尾教研やその他の研修・研究大会でいただいた資料を職員で回覧して、個々の参考にできるようにした。	お互いの授業を見ることができるような機会を設ける。 ICT機器の活用方法についての情報を集約・共有することで、どのクラスの授業でも活用できるようにし、一人一人の教師力向上につなげる。 教務主任を中心に、教員のニーズや情報収集をしっかりと行い、計画的に研修や講義を予定したり、先進校の情報や研修会の情報を知らせたりして、教師力の向上が図れるようにする。
	・分掌の明確化と協力し合える体制づくり ・業務改善に向けた職場環境の整備 ・在籍時間の縮減	10 校長教頭山田	① 「学校」が有する仕事を適正に分担する。 ② 提案事項によっては、事前に担当者会や運営委員会を行う。 ③ 報告・連絡・相談を、学年間、担当者間等で確実にし、チームで事にあたる。 ④ 行事の精選と内容の見直し、定時退校日・部活動なし期間の設定等、職場環境の整備を行うとともに、仕事の効率化を図る。	① 仕事特定のみに集中していないか。 ② 提案事項について、よく検討することができたか。 ③ 報告・連絡・相談体制が機能し、互いに協力し合えたか。 ④ 業務改善に向けた職場環境の整備が進んだか。	職員 ①2.5 ②3.1 ③3.2 ④2.9	職員アンケートでは、「仕事特定のみに集中せず、適切に分担されていたか」で、平均値が一昨年度より0.5%、昨年度より0.1%下がった。改善が進んでいないと感じている職員が半数にのぼる。 協力体制や相談体制については、年々改善が進んでいる。特に、「報告・連絡・相談体制が機能している」と全ての職員が回答している。 行事の精選等の業務改善に向けた整備は、今年度も順次進めてきているが、大切な教育活動にかけられる時間が十分確保されているとはまだまだ言えない。	仕事が集中していると考えられる具体的な意見を集約し、校務分掌の検討に生かす。また、高学年担任の空き時間を増やす。 今後も、行事の精選等、職員で意見を交換しながら職場環境を改善していく。 教職員のワークライフバランスを考慮し、県・町が策定した部活動指導ガイドラインも踏まえて、平日の部活動を最長16時50分まで、休日を月・木曜とし、17時には下校を完了させる。

学校関係者評価(その他の意見・改善策等)

<あいさつについて>
・登校の見守りをしていると、班長・副班長がしっかりあいさつする班は、挨拶をする児童が多い。班によっては、班長らが頭を下げて挨拶してくれることもある。挨拶をしてくれると、とてもうれし気持ちになる。
・いつも挨拶してくれる児童もいるが、存在しないかのように全く無視をする児童もいる。
・何でも大人の姿が大切。大人が全員挨拶をすればよい。
・家庭の問題でもあるが、学校での指導もお願いしたい。
<体育的行事について>
・ランニングカードに身近な施設等が登場し、親子のちょっとした会話につながり子どもの励みになったと思う。
・児童によっては、寒い外で走ることを嫌がる。「何の意味があるの」と嫌々登校している。志水っ子ランニングの意義を家庭でも子どもに伝えたい。
・以前に比べて、体を動かす量が格段に減ってきている。それが致し方ないことも理解できる。その中での努力をお願いしたい。

<出前授業について>
・保護者による「仕事の話」は、我が子が大変興味深かったようで家でたくさん話をしていた。女性も仕事をしっかりする時代なので、さまざまな仕事について知ることができるこの授業は、ぜひ継続してほしい。
<プログラミングの授業について>
・これからの教育だが、先生方の情報交換をする場を設けて充実させてほしい。
<保護者による授業の補助について>
・出前授業というようなものではなくても、例えば家庭科のミシンの補助など、ちょっとしたお手伝いを保護者ができるようにしてもよいのではないかと。協力してくださる方も多いと思う。
<その他>
・先生方のアンケートの低さが気になる。「まったく」が0になるといい。
・児童のアンケートでは「まあまあ」が50%以上の項目もあるので、よいと思う。
・ジャンプの課題という言葉を初めて聞いた。